



20220404 号	初めての市全域封鎖	所長 南浦秀史
20220406 号	上海市における封鎖状況 2	所長 南浦秀史
20220408 号	上海市における封鎖状況 3	所長 南浦秀史
20220411 号	上海市における封鎖状況 4	所長 南浦秀史
20220413 号	上海市における封鎖状況 5	所長 南浦秀史
20220418 号	上海市における封鎖状況 6	所長 南浦秀史
20220425 号	上海市における封鎖状況 7	所長 南浦秀史

初めての市全域封鎖

日本でも報道されているとおり、上海市全域封鎖が始まりました。新型コロナウイルス感染が発見されて以来、上海では初めての事です。常住人口約 2500 万人、中国を代表する国際都市であり大都会の上海が封鎖されるとあって、国内外で注目されています。

上海市は黄浦江という河を挟んで、浦東と浦西に分かれています。浦東は改革開放以来のニュータウンで、浦西は市庁舎や虹橋空港などがある古くから栄えている地域です。今回の封鎖は、3月28日から4月5日まで、浦東と浦西を4日ずつに分けて封鎖するというものです。

中国の行政単位は、粗っぽくいうと、市→区→街道→小区といった単位になります。街道は、日本でいう市の中にある〇〇町、小区は〇丁目といった感じです。私の小区はマンション群で構成され、240戸の小さな規模の小区です。

3月中旬から感染拡大の兆しがあり、感染者が出た小区は14日間の封鎖、濃厚接触者が出た小区は、まず48時間封鎖をして検査をしていました。3月15日に上海市政府発表文書において不要不急の外出自粛や在宅勤務要請がありました。

私の事務所も住まいも浦西にあり、感染者が少ない地域なので、これまで小区の封鎖は経験していません。西側は4月1日から封鎖されましたので、それまでは出勤することも買物に行くこともできていました。さすがに、封鎖前のスーパーは棚から生鮮食品や冷凍食品がなくなったりしましたが、食べ物がなくなることはなく、住民もパニックにならず淡々と封鎖に備えていた感じです。

封鎖後は居室から出ることもできませんが、小区単位でPCR検査や抗原検査が実施されており、その結果次第で制限が緩和されるようです。いまは、公共交通機関もすべて止まり、本当に必要な住民サービス従事者以外は外出できませんので、街はとても静かで、一日中、鳥のさえずりが聞こえ、どこの田舎にいるのか、と錯覚するほどです。

封鎖下の上海の状況について、引き続き、報告していきます。



上海市における封鎖状況 2

私が住む西部地域は、4月1日～5日まで封鎖の予定でしたが、解除はされず、現在も封鎖が続いています。上海では、連日、過去最高の感染者が発生していると報道されているようですが、当然と言えば当然で、2600万人の住民を家から出さず、一斉に検査をしていますので、無症状感染者を含め氷山の下まで明らかになっています。検査は、初日の4月1日にマンションの中庭に設けられた検査所に行つての核酸検査（＝PCR検査）、3日はボランティアの方が各戸に検査キットを配布しての抗原検査、そして4日に再度、核酸検査が実施されました。西部では一斉にこのスケジュールで実施されていますが、陽性者が発生した小区に住む知人の話では、3日・4日の検査はなかったそうです。

食料はこの間、一度配給がありました。私のところには、鶏肉1キロ、太刀魚800グラム、キャベツ1玉、玉ねぎ4個、にんじん2本、じゃがいも4個です。世帯ごとに配布されていますが、人数は関係なさそうです。そろそろ封鎖前に購入していた生野菜がなくなるので、大変ありがたく、太刀魚以外をカレーにして当面の晩御飯にしようと思っています。

この封鎖でも威力を発揮しているのは、携帯電話（スマホ）です。まず、検査では「健康雲」というアプリを使います。パスポート番号、氏名、電話番号、住所、勤務先などを登録して発行されたQRコードを見せると、係りが読み取ってビッグデータに登録されます。検査結果も携帯電話で数時間後に見ることができます。情報伝達は、WeChat（微信）アプリが主です。各機関が作成している微信公式アカウントをフォローすることで、発表された情報がタイムリーに入ってきます。市当局は、封鎖に関する通知や、市内で発生した陽性者情報や無症状感染者が発生した小区の情報などを毎日発信しています。通知は、日系企業向けサービスを提供している現地企業や法律事務所がすぐに翻訳文を提供してくれているので、正確に情報を把握することができます。微信そのものがコミュニケーションのためのアプリですので、それらの情報はすぐに友人・知人の間で共有されています。



上海市における封鎖状況 3

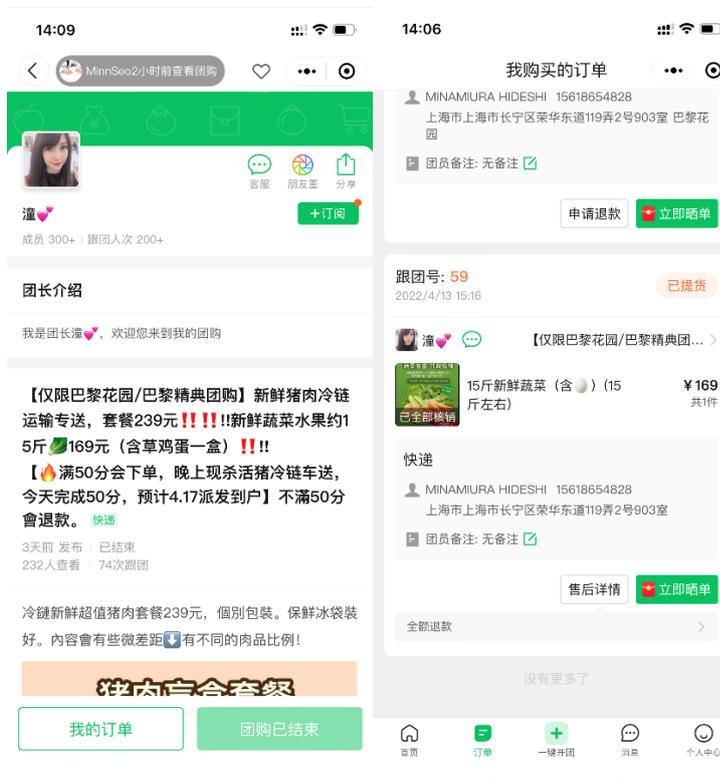
本日現在、封鎖解除の通知はありません。その後、私の小区では、6日・7日、そして今朝と続けて抗原検査がありました。市当局は、重点区域とそれ以外で検査を分けており、陽性者が確認されている重点区域では核酸検査(PCR検査)が行われています。

封鎖がいつまで続くかわからない中で、威力を発揮しているのは、先日も紹介した WeChat(微信)アプリです。今回の封鎖を契機に WeChat で2つのことが起こっています。

一つは、住民のグループチャットです。これまで私のマンションではどこに誰が住んでいるのかまったくわかりませんでした。夜の明かりの灯り具合で、半分くらいしか入居していない、と思っていたほどです。ところが、情報伝達のために住民のグループチャットが立ち上がり、その結果、ほとんど空きがないということと、日本人が何人が住んでいるということがわかりました。私のところではマンションの棟単位でグループ化されており、私の棟は30戸で構成されています。今日は検査があるとか、入口にゴミ箱を設置しているので何時までに捨てに来てくださいといった情報が管理人から送られてくるほか、抗原検査の結果を写真でアップして報告するような使い方もされています。

もう一つは、集団購買です。検査の時とゴミを捨てる時以外は、住宅から出ることができませんので、これは小区の単位で、任意加入ですが集団購買のグループチャットが立ち上がっています。事業者が集団購買用のセットをつくって販売しており、ある程度希望者があれば、例えば、30セット以上から配達といったかたちで小区まで配達され、それを管理人やボランティアが手分けして各戸まで届けています。セットには、牛乳、豆腐、パン、野菜、果物、肉、卵、米、油など、わりと何でもあります。グループにセットの案内がされて、時間を区切って希望者を募るといった運用がされています。

私の家では子どもが小さなきに災害対策として食料を備蓄していましたので、ここ上海でも食料を備蓄する習慣が抜けず、日持ちのする麺やパスタ、米などのほか、冷凍食品や缶詰なども日ごろから備えて回転させていました。まだそれらにはほとんど手をつけていませんので、あと一週間くらいは問題ありませんが、いつでも食材を購入できるのは安心です。



上海市における封鎖状況 4

西側地区の封鎖が始まって 11 日目になりました。9 日の朝、抗原検査がありましたが、急遽全市一斉の PCR 検査の通知があり、夜に、検査を受けました。今後、今回の検査にもとづいて 3 つのレベルに分けた封鎖管理をする方針が示されましたが、11 日朝の段階で自分の小区がどうなるかの連絡はなく、以前のままです。

日本では封鎖下にある上海の食料不足が報道されているようですが、私の住んでいるところでは 2 度目の配給が 9 日にありました。キャベツ 1 玉、人参 5 本、トマト 2 個、にんにく 2 個、生姜 1 個といった内容です。冷蔵庫の生野菜が尽きたので、助かっています。また、昨晚、3 度目の配給があり、牛乳 1 リットル、肉の缶詰 340 グラム、乾燥麺 400 グラムが各戸に配布されました。

食料は政府からの配給(無料)と団地で実施されている共同購買で入手する方法があります。しかし、共同購買は携帯電話アプリを使った自主的なものですから、老人や中国語をよく理解できていない日本人は参加できていません。私の小区では、年老いた両親が住人の娘さんが、本人は団地の住人ではありませんが、この共同購買グループに参加して両親のために注文をしています。

また、ある時グループの管理人から、ある日本人住民が共同購買に参加できず、食料がなくなっているという情報が入ったという投稿がありました。即座に数名の中国人住民から日本語ができる手が上がり、その日本人の住まい(〇棟〇号室)が確認され、手が上がった人から、それなら、同じ棟に友人がいるからその友人に連絡をするということで、解決したようです。中国には、朝の中央テレビ台による全国ニュース「朝聞天下」という番組があります。NHK ニュース「おはよう日本」のような感じです。全国のニュースが簡潔に報道されますが、やはり、ここ最近では上海の都市封鎖の状況についての報道が続いています。特に、周辺の省や直轄市から、飛行機やバスなどで医療チームが入ってくるニュースは、現地を出発するところが映像で流れたりもしますが、小さなキャリーケース一つで、当面の食料などをカバンに詰め込んで乗り込んでいるところを見ると、日本と同じように、医療従事者の皆さんには本当に頭が下がる思いがします。



上海市における封鎖状況 5

今回の上海市一斉封鎖は、新型コロナウイルス感染症の発生度合により、市内各地域を 3 つの区分に分けて管理することが示されています。「封控区」、「管控区」、「防範区」というものです。

「封控区」は 7 日以内に陽性感染者が報告された団地で、7 日間の封鎖管理 + 7 日間の在宅健康観察が実施されます。7 日間の封鎖管理期間中は、団地は封鎖され、住居から出られません。

「管控区」は、7 日以内に陽性感染者が報告されていない団地で、7 日間の在宅健康観察が実施され、団地の外に出られず、人の集まりは厳格に禁止されます。原則として自宅に留まり、厳格な个人防护を前提に、団地内の指定された場所で、無接触方式で配送物資を受け取る事ができます。

「防範区」は、14 日以内に陽性感染者が報告されていない団地で、社会的な管理が強化され、人の集まる規模は厳格に制限されるものの所在地の街道内で適切に活動することが認められています。

4 月 11 日夜に、4 月 9 日～10 日にかけて全市一斉に実施された PCR 検査の結果にもとづき、市内各区の「防範区」となる団地が発表されました。私の団地は「防範区」で、12 日より、必要があれば守衛のところまで登録をして外出できるようになりました。しかし、スーパーや商店、コンビニなどはまったく営業していませんし、たまたま、私の職場は、同じ街道にあるので出勤できるかなと思ったのですが、入居しているビルの再開も未定とのことでした。

「封控区」・「管控区」は日々変わるので、どの団地が何に属するのかが公表されていません。しかし、市の公式ホームページで自分の団地名を入れると、いつ解除予定かがわかるサイトができています。上海事務所には私のほかに 3 名の職員がいますが、今後団地内で新たに陽性者が出ないかぎり、それぞれ 19 日、22 日、23 日に解除予定となっており、これを見る限り、当面いまの状況は変わらないのかなと思います。



上海市における封鎖状況 6

封鎖が続く上海市では、日本商工クラブが役員企業約 50 社を対象に緊急アンケートを行い、その結果をとりまとめて、4 月 15 日、上海市人民政府宗明副市长 あて提出しました。提出にあたっては、在上海日本総領事館赤松大使から副市長あての手紙を添えています。この手紙が現地でも広まっており、中国東北地方在住の友人から読んだと連絡がありました。アンケートでは事業面と生活面での具体的な困難について、日系企業の声を集めたところ、両面において切実であることが明らかになりました。商工クラブは、上海市政府の感染封じ込めへの奮闘に大いに敬意を表すとともに、中国経済の発展に寄与する日系企業が、一日も早く従来のように事業活動ができるよう、予見可能な政策の遂行と安心できる生活への配慮を上海市政府にお願いしています。詳細は上海日本商工クラブのホームページで公開されていますので、ぜひご覧ください。 <https://www.jpccic-sh.org/news/article/newsid/3375>

4 月 18 日現在、封鎖をとりまく環境に大きな変化はありません。私の住む団地は、4 月 1 日の封鎖以降感染者がないので、防範区に指定され、団地の外にも自由に出ることができますが、商店やスーパー、コンビニなどが一切営業していないのと、100 メートルほど離れたところにあるマンション 2 か所で新規感染者が出ており、万が一のことがあると、再度、団地全体が 14 日間の封鎖になるので、怖くて外に出る気がしません。その代わりに団地内での集団購買が非常に盛んです。近所の中華系スーパーが 集団購買向け野菜セットを提供し始めました。他には、崇明島の産直野菜、米、コーラ、ミネラルウォーター、調味料セット、冷凍食品セット、中華粽や鶏の蒸し焼き、コーヒーやケーキ等も登場しています。値段は安くもなく高くもなくです。市場監督局が目光らせており、おかしな値段設定はできません。流通に携わる人が少ないので、一つひとつ購入したいものを選ぶわけではなく、一塊のセットのみで販売されています。量が少し多く、独り者にはちょっと持て余し気味ですが、片っ端から冷凍しており、当面のあいだ食料は問題なさそうです。



上海市における封鎖状況 7

巷ではそれらしい根拠を伴った噂があふれていますが、依然として、本日現在、封鎖解除の見通しについて公式発表はありません。しかし、封鎖解除に向け少しずつ動き始めているように感じます。上海市当局は、16日に企業の生産再開に向けたガイドラインを公表しました。その後、666社からなる重点企業ホワイトリストが公開され、それらの企業は、防疫条件を満たせば生産することが可能になりました。上海市臨港地区に工場を構えるテスラが生産再開したことは、日本でも報道されているとおりです。また街中では、デリバリー対応のみですが、飲食店やスーパー、コンビニなどが再開し始めています。窓をあけて仕事をしていると配達のための車や電動バイクの喧騒が聞こえるようになってきました。まだほとんどの店が、集団購買対応のみですが、私の小区近くの一部の店では、配達可能金額を設定して個人対応もするようになってきています。

私の小区では、18日の夜に4回目の配給がありました。トイレトーパー、ティッシュ、油、米、塩、醤油、乾麺、卵、セロリ、キャベツ、玉ねぎ、冷凍ステーキといった内容です。今回は、備蓄していたトマトピューレを使って、配給された野菜と肉とでミートソースを作りました。余った分は冷凍して、しばらくパスタのお供です。今回の封鎖下での配給では、食材は材料のまま提供されますので、多くの方が初体験をしているようです。知人の小区では鶏が丸ごと1羽配られました。貴重なタンパク源ですから、捌き方を説明している動画をネットで探して、それを見ながら捌いたそうです。料理の腕が一段階あがったような気がすると言われていました。またある知人は、食器を洗うのが嫌で、ほとんど家で料理をしたことがありませんでしたが、今回、生まれて初めてキャベツを切ったそうです。私にも初体験があります。それは魚の煮つけです。冷凍太刀魚が最初の時に配られましたが、身がそれほど大きくないので、ネットでレシピを探して、煮つけにしました。煮物自体、あまり私のレパートリーにはありませんが、中国に来てから肉じゃがなどをつくっていたので、みりんや料理酒が家にあり、それらを使って料理することができました。味はまずまずでした。自分で作ったものは美味しく感じるようです。

